

## 茅小屋地区（東白川村越原大明神集落）

令和元年度事例

## 【地域の概要】

東白川村の最東端に位置する大明神集落は、基幹作目が水稻のコシヒカリと雨除けハウスで栽培される夏秋トマトに代表される。この集落内において、標高610メートルから630メートルに農地がある茅小屋地区に新規就農者を受け入れることになりました。

- 1年間トマト栽培について関係農家での就農研修を実施（家族就農者も第三セクターが運営するトマト栽培ハウスで実習）
- 大明神集落営農組合役員と茅小屋地区内に農地を有する農家との調整（JA、普及所、トマト農家代表、農業委員、新規就農親子）
- トマト栽培の先輩就農者が管理する農地が隣地に位置する箇所に経営目標面積を目安に農地0.5ヘクタールを確保
- 利用権設定など農地中間管理機構事業等の手続き

## 取組開始前の状況や課題

- 夏秋トマトの中心的産地ではあるが生産農家の減少傾向は続いてきた。
  - 新規就農者が時々出現してきた。
  - 大明神集落営農組合が中心となって水田耕作を担っている。
  - 大明神というネーミングにも引かれ、ここでの田舎暮らしを始めた人もある。
- 近年における定住家 11戸  
うち就農家 6戸



茅小屋地区

## 取組内容

- 新規就農希望の申し入れへの対応（村役場）
- 関係者による就農相談会の開催（選果場）  
JA第3事業部、トマト農家代表、農業委員、JA支店及び役場担当者による面談
- 研修計画の立案と希望農地確保のためのトマト生産農家代表、第3セクター担当、普及課、JA支店及び役場担当者による調整
- 機構事業の活用と生産資材調達計画の作成  
農地所有者との調整、資材供給部との調整



関係者による相談会の様子

## 今後の展開と方向性

- 生産開始後における指導支援策の実施
  - 定着のための地域としての包括的な支援体制の検討
  - 規模拡大に備えた候補農地の選定・確保
  - 次ぎなる就農者への対応準備
- ※昭和から平成に移った頃、本地区におけるトマト生産農家数は3戸でした。今回、就農者があって3戸にまで回復しました。この地区から大明神集落全体への拡がりに希望を持ち、関係者が情報を共有し、情報の発信等に努めています。
- 生産農家への支援として、有利な資金情報のほか、より良い経営者になれるよう農業簿記・農業者年金加入・農業新聞購読等の各種情報を選択肢として提供する。
- 今後は、地域の一員としてまた、農業者の仲間として地域づくりにも積極的に参画してもらえよう見守りと働きかけを継続したい。